

# 産大レクチャー ア・ラ・カルト

〈206〉

3月4日、令和7年度  
予算案が衆議院本会議  
で賛成多数で可決され  
た。

一般会計予算案の修正  
後の総額は、政府案の1  
15兆5415億円から  
3437億円減額の11  
5兆1978億円となっ  
た。これは、高校授業料  
無償化への対応や高額  
療養費制度の見直し、  
「年収103万円の壁」

の引き上げによる税収減  
等をふまえたものであ  
る。政府予算案の国会修  
正は第1次橋本龍太郎  
内閣以来の29年ぶり、減  
額修正は第2次鳩山一  
郎内閣以来の70年ぶり  
となった。

さて、このような予算  
に関する話題は、国民の  
関心が高いものであり、  
メディアで大きく取り上  
げられる機会が多いよう

に思われる。こうした  
「どういふことにお金が  
使われるのか」に注目が  
集まる一方で、「どうい  
うことにお金が使われた  
のか」という決算に対す  
る国民の関心はどうだろ  
うか。もしかしたら、予  
算に対する関心に比べて  
低いかもしれない。

しかし、決算に注目す  
ることも重要なことであ  
る。日本国憲法第90条に

は、「国の収入支出の決  
算は、すべて毎年会計検  
査院がこれを検査し、内  
閣は、次の年度に、その  
検査報告とともに、これ  
を国会に提出しなければ  
ならない」とある。毎年  
4月末の出納事務完結後  
に、決算報告は会計検査  
院に送付される。会計検  
査院での検査を経て内閣  
に決算報告を付して回送  
され、それが国会に提出

## 国の予算と決算

澁谷 朋樹

されて審議が行われるの  
である。ちなみに、会計  
検査院の令和5年度決算  
検査報告によると、税金  
が不適切に取り扱われた  
のは345件、総額64  
8億6218万円に上っ  
たという。

こうした決算の過程を  
通して政府支出の実態を  
明らかにし、その後の予  
算編成に反映していくこ  
とが重要となる。そして、

それは私たちにどうして他  
人事ではない。政府支出  
のための最も基本的な財  
源は租税であり、その無  
駄遣いは許容できるもの  
ではないだろう。また、  
予算と決算の審議は国会  
で行われるが、国会議員  
は主権者である国民の信  
託を受けた全国民の代表  
である。したがって、国  
民の一人一人が、予算と  
決算の状況を把握してい  
かなければならないので  
ある。

（ここまで国の予算と決  
算について述べてきた

が、日常生活を送る中で  
財政を身近に感じる機会  
は少ないかもしれない。  
しかし、財政は私たちの  
生活に大きく影響を及ぼ  
すものといえる。財政に  
関する情報は、財務省ホ  
ームページなどを通して  
簡単に入手することがで  
きる。財政を知るための  
第一歩として、まずは予  
算と決算について検索し  
てみるのはいかがだろ  
うか。

（経済学部 助教）  
■毎月1回掲載■

# 地域貢献の 学生を表彰

新潟産大

「地域に学び、地域をおこす」をスローガンに掲げる新潟産大（梅比良眞史学長）は地域貢献活動で4個人・3団体合わせ10人を表彰した。

授与式で、権田恭子・同大地域連携センター長は「大学では知識を高めるだけでなく、社会と関係を築く力を養うことも重要」とし、「私は皆さんに、まず『主体的な生活者』として成長してほしいと願っている。皆さんが学生生活を送

る柏崎での経験は、必ず次のステージで役立つ」と述べた。式は先月下旬に行われた。

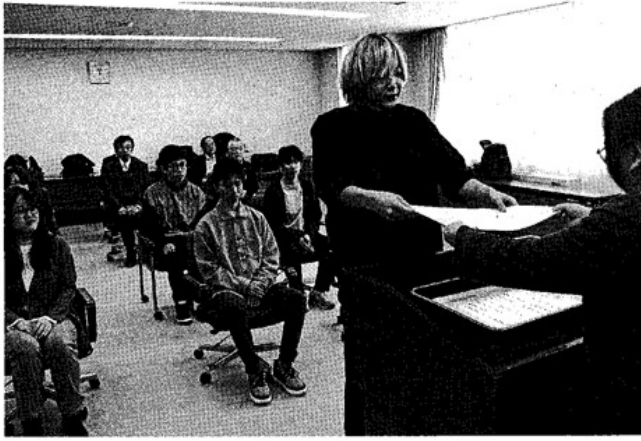
受賞者の一人、文化経済学科4年・伊藤俊祐さんはゼミ活動を通して高柳町での植林、堀の野菜栽培、新道柿収穫に取り組んだ。

「振り返ってみるといろいろなことに挑戦し、達成感が湧いてきた」とし、「気に入っている場所は柏崎駅前。雰囲気か地元に似ている」と話した。

受賞者は次の通り。かつこ内の「経」は経済経営学科、「文」は文化経済学科、

数学は学年。

- 個人Ⅱ村山翔琉（経4）、伊藤俊祐（文4）、南唯香（文4）、バクソソソソ（文3）▽団体Ⅱ権田ゼミ（岸田尚也、佐藤風紗Ⅱ文4）、書道部（本間才揮Ⅱ経4、岸田尚也Ⅱ文4）、吹奏楽部（平井創大Ⅱ文3、田中夢翔Ⅱ経2）



地域連携活動賞を受ける学生Ⅱ新潟産大



88人が新たな道へと巣立った新潟産大の卒業式15日午前、同大講堂

# 「メタ認知」忘れずに 新潟産大 88人が学びや巣立つ

新潟産大（梅比良真中学  
長）の第34回卒業式・学位  
授与式が15日、同大講堂で  
開かれた。学部卒業生81  
人、大学院修了生7人が  
新たな道へ期待を膨らま  
せ、学びやを巣立った。式  
後の卒業記念パーティー  
はリニョアルした学食  
で行われた。

学位記の授与は経済経営  
学科、文化経済学科、院生  
の各代表3人が受け取っ  
た。式辞で梅比良学長は、  
多様化する現代社会はA  
に頼るだけでなく、創造力  
や人間性を大切にすること  
が重要であると強調。さら  
にフランスの哲学者アール  
トの言葉「困難は分割せよ」  
を引用し、「困難に直面し  
たときは、目標を見失わず、  
自分の立ち位置を常に自覚  
すること。そして、自分を  
もう一人の自分の視点で見  
る『メタ認知』を忘れない  
ことが、成功への道につな  
がる」と期待を込めた。

来賓の桜井市長は「皆さん  
が柏崎で過ごした時間は  
かけがえのないものだった  
と思う。この地を離れても、  
友人や家族とともに再び訪  
れてほしいと呼び掛けた。  
在学生代表の3年・本田翔  
大さんは「先輩方の晴れや  
かな姿を拝見し、皆さんと  
過ごした楽しい日々を思い  
出す。皆さんが築き上げて  
きた大学が、より発展でき  
るよう尽力していく」とエ  
ールを送った。

卒業生代表の南唯香さん  
は「この4年間は多くの挑  
戦と学びがあった。特に博  
物館学芸員課程や茶道部・  
書道部の活動、ゼミでの地  
域活動で得た経験が印象に  
残っている」と振り返った。  
家族や仲間、教職員、そし  
て地域の支えに感謝し、  
「それぞれの道を歩みなが  
ら、日々精進していく」と  
決意を述べた。

率86・8%で前年の89・  
4%を下回った。学長賞  
（成績優秀者）、功労賞は  
次の通り。

学長賞 藤村悠斗（経  
済経営学科）、岸田尚也  
（文化経済科）▽功労賞  
横山暉太郎（水球）、前  
野美月（同）、小川虎太郎  
（空手）、サッカー部4年  
バイガリ（国際交流）、村  
上翔琉（地域連携）、岸田  
尚也・佐藤凪紗（権田ゼ  
ミ）

学部卒業生の就職内定

# 「新治大学」 地域に学ぶ 地域を学ぶ

— 史政活動レポート —

## 子ども向け 体験教室

絹川ゼミナールでは地域の子どもたちへ理科に関する関心、ロボットへの理解、モノづくり能力等を高めること、そして現代社会構想が必要としている地域貢献活動を促進することを目標にした体験教室を柏崎市や周辺地域の各イベントに参加し、実施している。

この活動の一環として  
2月に行われた「柏崎冬のフェスティバル」V.O.1-4に初めて参加し子ども向けの体験教室を開いた。具体的には①理科工作（紙コップ万華鏡作製）②モノづくり体験教室（オリジナル動物キャラクター作製）を行った。私とゼミ生は子どもたちの指導に当たり、子どもたちは自分の手で作品をつくり、光の不思議体験、モノづくりの体験をした。

鏡では多くの子どもが大きな声で「きれい」と歓声を上げるほどであった。また、体温で軟らかくなり、粘土遊びの要領でオリジナルのキャラクターづくりができるマイクロワックスを使い、オリジナルのキャラクターづくりを行った。パンダや雪だるまなどのキャラクターを自分の手で作って満足して喜んでいった。子どもたちの中には、自分のアイデアを形にした作品、例えば車や恐竜の形をしたものもあり、モノづくりに対する関心の高さを感じさせてくれた。

専門分野が入ること、自身と地域との関係を希薄に感じ始めていたが、このような地域との交流の機会をいただけで、改めて大学理念の『地域に学び、地域をおこす』を実感できた。振り返る。体験教室を通じて地元との教育機関である大学と地域の連携強化を図り、地域理解、地域活性化に

も貢献できた。このような活動を今後も継続して行っていくことは、市民との交流促進、地域コミュニティの強化とさらなる地域活性化に繋（つな）がる。信じている。



二イ 経済学部教授・絹川ケイ  
（同大学地域連携センター）